

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和2年 6月 1日

放課後等デイサービス クリーむうさぎ・守口

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			現状基本定員以下、療育内容別に部屋を使い分けている
	2	職員の配置数は適切である	○		休日・長期休暇増員対応	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			トイレ・指導訓練スペース共にバリアフリー
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○	常に簡易MT開催	週月単位に定期開催(イベント中心)
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		保護者懇談活用し、詳細業務改善に繋げる
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			府庁提出後、HP公開・保護者配布説明
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	相談支援・児童発達支援へ評価相談	社内にてSWOT(内部・外部環境)分析活用
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		○		外部セミナー活用も具体的・実践的内容に欠けており、独自性を見出す(時流確保)
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		モニタリング(3.6月)3者面談活用	従来の療育計画に拘らず、現状の子ども・市場環境に適した計画を立案
	10	子どもの適応行動の状況把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		ST・OT・PT基本に専門療育機関連携	PECS等従来療育をオリジナル化(SST):SPELL等把握基本に対応
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		利用児童の変化考慮	年間計画・月(歳時)を基本に前年度比較・硬直化しないようにしている
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		利用児童の変化考慮	基本的にイベントシート計画・実施・分析・評価を繰り返す事で固定化回避
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		学校行事を考慮	平日は曜日別・土曜は歳時・郊外活動中心
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			利用児童に応じて組み合わせ等考慮
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			基本的に前日終礼・朝礼に対応している
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			療育手帳(保護者へ)記入手渡し、個別記録作成を当日に実践
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			個別記録記載(通常との変化中心)
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			児童の変化・得意分野の発見・発達支援を中心に苦手克服に偏らないように実践	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている		○			基本確認も現場重視

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			基本的に児童発達支援管理責任者
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		○	放課後等デイサービスから積極的に取り組む	基本的に学校・先生多忙、書面での共有・TEL情報交換に終始
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		保護者・相談支援の指示・確認の元、対応
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		相談支援をベースに対応(今後積極的にアプローチしていく)
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		対象がないので未
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			発達支援センター(守口・門真)と連携
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	現状交流ない	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	参加交流出来ていない	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時・連絡事項で共有化	保護者との関係強化・密度アップ
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	現状至らず	今後対応・基本方針具体策策定
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に重要事項説明書等で丁寧に説明
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			児童発達支援管理責任者中心に対応
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	音楽発表会等イベント活用	保護者意見に対応していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			基本的に対応している
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			うさぎ通信で月中旬に発信・配布
	35	個人情報に十分注意している	○		細心の注意払う	契約時に、個人情報使用承諾書締結
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		丁寧に対応	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	出来ていない	家主・老人ホームとの連携模索

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		当初から次亜塩素酸水導入・除菌徹底	開所時より次亜塩素酸水での安全性確保・除菌・ウイルス除去徹底
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			大阪府生活基盤推進課・守口市発達支援センター等ご案内セミナー積極的活用
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			基本前提である
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			相談支援基本計画・保護者ヒアリング対応
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		他事業所を参考に活用